

# イチオシ!

## M OVIE

### 『消えた画<sup>え</sup> クメール・ルージュの真実』

1970年代、クメール・ルージュの支配下にあったカンボジアで数百万人もの市民が虐殺された。当時13歳だったリティ少年は、家族や友人を失いながらも生き延び、その体験を伝えるべく映画監督となる。そして、制作したのがこのドキュメンタリー。犠牲者が葬られた土から作られた人形たちが、ジオラマの舞台上で恐怖の体験を語り始める。動くことのないその表情から感じ取れるのは、人々の怒りや悲しみ。当時の映像も交じえながら、闇の記憶をひも解いていく。



2013年／カンボジア・フランス／95分  
監督：リティ・パニユ  
公開：7月5日(土)よりユーロスペース(東京)他 全国順次公開  
URL：www.u-picc.com/kietae/  
配給：太秦

## E VENT

### 『世界報道写真展2014』

世界45カ国、約100の会場で開催され、毎年約200万人を動員する世界最大規模の写真展。132の国・地域のプロの写真家が撮影した9万点以上の作品の中から、選りすぐりの約160点を展示する。今年の大賞は、東アフリカのジブチで、祖国の家族と連絡を取るために携帯電話の電波を探す移民たちを写したもの。昨年11月にフィリピンを襲った台風の被災地の人々や、インドの先天性色素欠乏症の少年などを写した作品も並ぶ。普段は知り得ない世界の出来事に目を向けてみよう。

会期：6月7日(土)～8月3日(日) 10～18時(木金は20時まで)  
会場：東京都写真美術館  
TEL：03-3280-0099  
URL：www.asahi.com/event/wpph/  
※8月以降は、大阪、京都、滋賀、大分を巡回予定。

## B OOK

### 『素顔のカンボジア』

2007年からカンボジアを拠点に現地の人々に密着した取材を行い、秋田魁新報に写真とルポルタージュを寄稿した著者。ポル・ポト政権下、約1万5,000人が処刑されたといわれるトゥールスレン収容所の元死刑囚やごみ山で生活する子どもたち、トンレサップ湖の水上市村で暮らす人々の声を伝えた。その連載をまとめたのが本書。紙面では未掲載の写真も多数収録している。困難な状況の中で、力強く生きるカンボジアの人々の思いが見えてくる。



高橋智史 著  
秋田魁新報社  
1,944円(税込)

この本を  
1人の方に  
プレゼント  
詳細は  
38ページへ

## B OOK

### 『中東から世界が見える イラク戦争から「アラブの春」へ』

近年、中東、北アフリカが混迷を深めている。エジプトでは「アラブの春」後の選挙で発足した政権が倒され、シリアでは内戦が激化し、パレスチナ問題も解決の道筋が見えない。なぜ、このような事態になったのか。本書では、民主化の動き、イスラムと政治の関わり、若者たちが求めているものを軸に中東が抱える問題を解説。この地域に石油などの資源を依存し、密接な関わりを持つ日本が取るべき行動についても考える。



酒井啓子 著  
岩波書店  
907円(税込)

この本を  
1人の方に  
プレゼント  
詳細は  
38ページへ